

4月7日(水)桜吹雪が舞うなかで入学式が行われ、285名の新入生が誕生しました。入学式の式辞を掲載します。ご一読いただければ幸いです。

## 入学式 式辞

桜の花が、君たちの入学を今か今かと待ちわびながら、今日まで咲き続けてくれました。

新入生のみなさん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。本校の今年度の入学試験は、推薦、学力検査とも過去最高の倍率となりました。推薦では、学力向上研究誌『恋文、そして挑戦状』を読んで、早くあの先生の授業が受きたい」という声が聞かれました。学力検査では、説明会でお渡しした合格祈願の鉛筆の短くなったものと長いものをもった受検生がたくさん見られました。難関を乗り越え、晴れて入学を果たした皆さんに、よくぞ頑張ったとの思いでいっぱいです。

そしてこの佳き日に、ご繁忙のなかをご光来たまわりました東京都議会議員吉田康一郎様、本校同窓会会長春木剛史様をはじめご来賓の皆様に篤く御礼を申し上げます。

さて、新入生と保護者のみなさんに、まずうれしい報告があります。それは、武蔵丘高校が今年度、東京都教育委員会から、「学力向上開拓推進校」と「部活動推進指定校」という二つの指定校に選ばれたことです。

「学力向上開拓推進校」は、生徒の学力を正確に捉え、きめ細かい指導で学力向上に努力する学校を応援する、できたばかりの新しい制度です。そして「部活動推進指定校」は、部活動を活発にしようと頑張る学校を、財政面を含めて特別に応援する制度です。

応募が殺到する激戦を制して、しかも勉強と部活動、この両方の指定を同時に受けたのは、181校の都立高校の中でたった3校しかないそうです。

どちらの指定校も、教員の努力だけでは駄目で、生徒も一緒に努力していることが選ばれる条件となっています。落ち着いた校風を伝統として受け継ぎ、授業でも、部活動でも、生活面でもさらに高みをめざした君たちの先輩たちと、それを支えた教職員の努力とが相まって、この榮譽を導いたのです。

私たちは、中学生の皆さんから第一志望として選ばれ、「武蔵丘高校に入学し、卒業できて良かった」と実感してもらえる学校を創ろう、この一念で学校の改善に力を注いできました。その歩みが、二つの推進校の同時指定という、予測を超える前進につながったのです。

予測していなかったことをもう一つ報告します。それは、皆さんが第一期生となる新しい標準服が、学研が発行している「都立に入る」の2011年度版の表紙を飾ることになったことです。

私たちは、本校に入学してくる皆さんに、これまでのちょっと不人気だったものに替えて、誇りをもって着続けてもらえる標準服を創ろう、そう決めて特別の検討チームをつくり、準備を進めました。在校生だけでなく、学校説明会の折には皆さんからも意見を集め、たとえばスカートの色を変更したり、女子の夏服の素材を調整するなどして完成に漕ぎ着けました。冬服も夏服も素晴らしいということで、数ある学校の中から本校が選ばれ、ぜひ男女4人が冬服と夏服を着て並んだ写真を表紙に載せたいという要請を受けたのです。

その標準服をまとった皆さんが一同に会した姿を見て、感激でいっぱいです。新しい標準服を大切に育て、次の学年にしっかりつないで新しい伝統として定着させていってください。よろしくお願いします。

学校教育は教師と生徒との人格の相互作用です。私たち教師は応援団であり、実際に歩みを進めるのは生徒である皆さん自身です。その皆さんが、とてもハッピーに、しかも稔り豊かな高校生活を送る秘訣を次にお伝えします。

いま本校では、今月中に、ホームページをリニューアルする準備を進めています。その中に、武蔵丘をとりまく自然を写真に収めたフォトギャラリーを作る予定で、そのトップには、屋上で撮影した「富士山」をもってきました。真冬なら空気が澄んでいてすぐに撮れたのですが、3月になってしまい、撮影に成功するまで10日以上もかかりました。

富士山にこだわったのには訳があります。たった一つのことしかできない、一つのことのできれば他はどうでもいいという人ではなく、また、苦手なこ

とを避けるのではなく、苦手なことにこそ挑戦する。そして、富士山のように裾野の広い、人間として均整のとれた、人としてプロポーションのいい若者に育って欲しいと願ってのことです。

「一つだけでも大変なのに、あれもこれもなんてとても無理だ。『二兎を追う者一兎をも得ず』という諺だってあるじゃないか」と言う人がいるかもしれませぬ。しかし、実はその諺は間違いだということが科学的に証明されつつあります。

一つのことができるようになってから次のことにうつると、前に学んだことをすぐに忘れてしまう。それより、二つのことをとっかえひっかえ同時進行でやった方が最初こそ歩みは遅いのですが、両方とも確実に早くできるようになる、という実験結果をまとめた研究論文が、「ネイチャー」という世界的に権威のある科学誌に取り上げられたのです。それを書いたのは日本人で、じつは私の友人の奥さんです。

「学力向上」と「部活動推進」、この二つの指定校を同時に受けたのは、勉強と部活動の「二兎」を追って、両方ともものにする絶好のチャンスです。

たった一つのことだけで満足してはもったいない。ぜひ二兎も三兎も追ってみてください。

もう一つあります。得意なことをさらに伸ばすより、苦手なことを克服することに挑戦してほしいということです。その方が、人間としての器が大きくなります。

「木の桶」を例にお話します。木の桶は、木の板を何枚もつなぎ合わせて作られます。その1枚、1枚の板が人間の様々な能力や資質で、その桶に入る水の量が人間としての器、器量だとします。

木の板の中には、長所である長い板もあれば、短所である短い板もあります。長所の長い板をどんなに伸ばしても、桶に入る水は、一番低い、短所の板の長さまでです。これに対して、短所の短い板を伸ばせば伸ばすほど、桶に入る水の量は多くなり、人間としての器が大きくなるわけです。

この3月、数学がどうしようもなく苦手で、みんなが心配していたある生徒に、「数学の成績はどうだった」と声をかけました。すると、「数学は何とかなりました。もう怖くない、大丈夫。今度は成績にムラのある英語に挑戦

し、絶対に英検2級に合格するんだ」という、嬉しい言葉が返ってきました。しかも隣にいた友達がニコニコして「私も手伝ったんだ」と言っていました。苦手なことにチャレンジし、「ピンチをチャンス」に変えて裾野を広げた生徒がいることを、それを支え、励まし続けた友達と教員がいることを、私は心から誇りに思います。

さあ次は君たちの番です。武蔵丘高校は、皆さんが人間として資質や能力を幅広く磨くチャンスをたくさん用意しました。

「チャンスはいつもピンチを連れてやってくる」とも言います。せっかくのチャンスに気づかず、見逃してしまうと同じチャンスは二度と来ないかもしれません。武蔵丘で出会う様々なチャンスを余すところなく活かし、富士山のように均整のとれた、そして美しい若者に育ってください。それが、創立70周年を迎え、上げ潮に乗りつつある武蔵丘高校をさらに高みに誘う力となるのです。

むすびに、今年、皆さんの担任団の一員となる、ある先生の言葉を私は忘れることができません。それは、「私たち教師が生徒たちにできることは何だろう。授業や部活などいろいろあるけど、生徒のために、真剣に努力する姿を示し続けること、これしかない」というものでした。私たち武蔵丘高校の全教職員は、どんな困難があろうと、この武蔵丘高校に、かけがえのない青春を託してくれた皆さんの期待に、全身全霊をかけて応えていきます。

以上をもって、晴れの日を迎えた新入生諸君に私から送る心からの「恋文、そして挑戦状」とします。

君たちが、3年間ひたむきに努力を重ね、一人ひとりが見事な返信を書き上げ、私たちに保護者の皆さんのもとに届けてくれることを心待ちにしています。

平成22年4月7日

東京都立武蔵丘高等学校長 谷島 昭